

絆・決意かためた被災地の旅

私達高校3年生の実行委員9名は、念願叶い8月19日、夜行バス（思いもよらぬ貸切）に乗り仙台に向かいました。仙台駅で朝食を済ませた足で、石巻→女川に向いました。いずれの町もあの日、甚大な被害に見舞われた場所です。



石巻の復興街づくり
情報交流会館で
破壊状況と復興
状況の説明を聞か
せていただきました。
みんな真剣な顔です。



女川を後にした私たちが次に向かったのはBRTバスの始発



駅前谷地です。そこから気仙沼までは復帰まならぬ線路跡の道を走るBRTバスでの移動です。トンネルを何度も抜け、遮断された線路を見て、一面赤茶色の土が積み上げられているだけで建物が無い場所を通り、何度もテレビでみた、鉄骨だけになった防災庁舎の横を通り、「ここまで津波浸水地域」の看板を何回も目にしながら3時間あまりかけて気仙沼にたどり着きました。港からフェリーに乗船して大島



に渡り、衝撃的な景色の連続の初日が終わりました。大島の埠頭に迎えに来てくださった民宿のお爺さんは、あの日車まま津波に飲み込まれ、流され間一髪のところで命拾いした話を聞かせてくださいました。民宿では海栗を山盛りいただき、美味しい魚をたらふく頂き初日を終えました。



上の写真はバスが
トンネルにはいるところです。

防災庁舎の周辺は何台ものク
レーンが嵩上げ（土を高く積み上
げ土地の高さをあげる）作業が進
められています。

2日目は早朝から海に向かい、静かな海を眺めながらも海岸沿いの土台だけ残された家屋・打ち上げられたままの壊れた漁船が、あの日津波と火に包まれた大島の状態を物語っていました。

さあ、いよいよ気仙沼市内の仮設住宅の訪問です。最初はいつも支援物資の配布でお世話をいただいている五十番タクシーの小野寺さんの復興マートを訪ねました。プレハブでお店を営業している方々に京都のお菓子をお届けしながらご挨拶をしました。送らせていただいたタオルハンカチをポケットから取り出し、「使っています。ありがとう。」送った扇風機も店内で回っていました。うちわも飾られていました。その後、私たちは陸前高田に向かい、1本松を見、マンションの破壊振りをみました。写真は裏面。

中央が震災当時からお世話になっている小野寺さんです。



仮設商店1件1件にお土産をお渡ししました



鹿折中学校仮設住宅の世話役の
小野寺さんを囲んで記念写真を！
全員が小野寺さんと握手を交わし
て、激励しました。

先日、小野寺さんから丁寧な
お礼状が届けられました。

波板大峠山仮設住宅では、親睦会を開いて
歓迎していただきました！

美味しいふかひれスープや、茎わかめの柴漬けなど
地元の名産品をいただきながら、歌を聞いてもらっ
たり、今の願いを聞かせていただきました。



訪問を通して思います

震災後に気仙沼を訪問したのは、今回で3回目でした。生徒の引率として高校3年生の委員とともに故郷の宮城県を見て回りましたが、改めて「復興」の意味について考える機会になったと思います。水産業のさかんな漁港も高齢化がさらに目立った印象を受けました。

いつの時代も町を興すのは、活気のある人々です。日本の都市と地方の経済格差はあまりにも開き、そのことは住民の年齢比率にも関係していると感じます。震災から4年以上経ち、嵩上げされた地面や遺構を見て回ったとき、物理的な復興が果たして人を呼び戻す活力になるのか、私には未だ見えるものがありません。参加した生徒たちも、初めて訪れる東北の沿岸地域で、座学では想像できない問題を真剣に考えていました。そしていつかそれが見えるときが来るまで、被災した方々の気持ちに寄り添うことができるよう祈りました。

仲介支援を引き受けてくださる仮設住宅の会長さんや、タクシー会社のご夫妻、そこに住む方々の生の声に触れることで、彼女たちは、継続してきた活動に実感を持つことができましたと思います。

総合学習担当 佐藤 昂樹